

熊本大学の半導体・デジタル人材育成

熊本大学では、2030年の社会を見据え、「熊本大学イニシアティブ2030」を策定し、DX(デジタルトランスフォーメーション)時代の国際社会に対応できるリテラシーを身に付け、高度な英語力と異文化理解の力によりSDGsの達成に貢献できるグローバル人材の育成を目指し、様々なプロジェクトを進めています。また、半導体分野のグローバル企業の熊本進出を契機として、半導体分野における人材需要が高まる中、地域に根差す国立大学として、その高度人材の供給に応えることは責務と考え、教育・研究の取組を加速化しています。

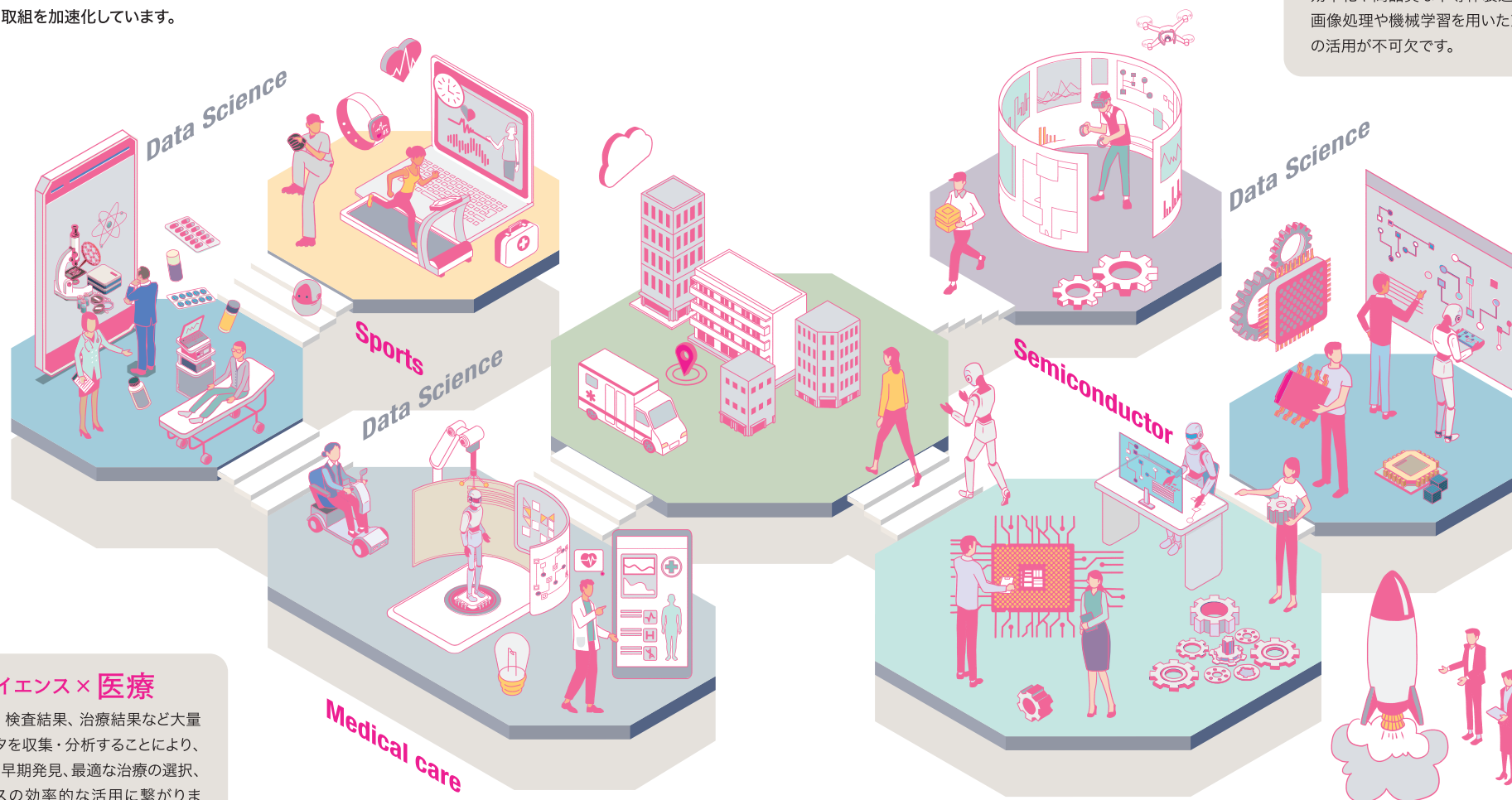
2024年4月、熊本大学は、DX、数理・データサイエンス・AIの素養を身に付け、DX課題に対応することのできる人材を育成する新学部「情報融合学環」及び半導体デバイスの製造・評価・開発に携わることのできる人材を育成する「工学部半導体デバイス工学課程」を創設し、半導体・デジタル人材育成に取り組んでいます。そして、2025年4月、大学院自然科学教育部に博士前期・後期課程「半導体・情報数理専攻」を設置し、高度な専門性を有した博士人材(イノベーション人材)の育成を促進します。

データサイエンス×スポーツ

試合の動画や選手のパフォーマンス、成績などのデータは、試合の戦術分析、選手の育成・トレーニングメニューの計画、コンディション調整や怪我防止などに活かされています。データの見せ方を工夫することで、ファンに新しい楽しみ方を提供することもできます。

データサイエンス×半導体

半導体製造工程は複雑で、高い精度とスピードも要求されるため、手作業や目視での製造・品質管理は不可能です。製造の効率化や高品質な半導体製造のためには、画像処理や機械学習を用いたアルゴリズムの活用が不可欠です。



データサイエンス×医療

患者の病歴、検査結果、治療結果など大量の医療データを収集・分析することにより、病気の予測、早期発見、最適な治療の選択、医療リソースの効率的な活用につながります。医療現場だけでなく、新たな治療法や新薬の開発にも活用されます。

熊本大学

データサイエンス×半導体プロジェクト